

# コンテンツ産業の振興について

【担当省庁：経済産業省】

## 1 コンテンツ産業の振興

海外向けのコンテンツの発信は、国のクールジャパン戦略にも掲げられ、平成28年度の国の補正予算においても、グローバル需要創出基盤整備などが打ち出されたところである。

京都府においても、コンテンツ産業の振興を図るため、映画制作・編集・配信等の技術開発や、コンテンツ系ベンチャーの育成支援、国際交流、観光振興、人材育成等の機能をあわせ持つ「大メディア産業拠点形成を目指す「京都クロスメディアパーク構想」を推進しているが、世界的にも評価の高い日本の時代劇などのコンテンツの継続的制作に不可欠な、技術継承や若手クリエイターを育成するためのコンテンツ制作の施設がないという課題を抱えている。

現在、府内において、爆破・炎上シーンの撮影が可能なフリースペースを備えた、城下町、武家屋敷、町家などのオープンセットの整備を計画しており、そうした施設整備を国のクールジャパン戦略として支援する制度の創設をお願いしたい。

### 【京丹波町が目指すオープンセットの構想】

- ・ 場所：京都府船井郡京丹波町安井  
(鳥インフルエンザ発生養鶏場跡地)
- ・ 全体面積：約4万7千㎡ (内オープンセット約2万㎡)
- ・ 建設費用：約20億円

京都府  
の担当課

商工労働観光部 ものづくり振興課(075-414-5103)

### ■経済産業省クールジャパン戦略(29)コンテンツ関連抜粋

- ▶ コンテンツグローバル需要創出基盤整備事業(平成28年度補正60億円)
  - コンテンツの海外展開を通じた日本の魅力発信のため、コンテンツの字幕・吹き替え等の現地化や国際見本市への出展等のプロモーション費用補助の総合的支援
- ▶ コンテンツ産業新展開強化事業(平成28年度6億円)
  - コンテンツ産業が持続的に発展する好循環を生み出すべく、
    - ①国際連携強化・海外発信、
    - ②国際人材育成・技術発掘、
    - ③国際見本市等を通じた海外展開基盤整備を実施
- ▶ 先進コンテンツ技術による地域活性化促進事業(平成29年度1億円)
  - 先進的なコンテンツ制作・表現技術による、観光・スポーツ分野等の魅力をプロモーションするコンテンツ制作を支援するとともに、先進的なコンテンツ制作・表現技術に係る最適な活用手法の取りまとめ、普及を併せて支援

### ■京都府が進めている「京都クロスメディアパーク構想」の概要

太秦地域に「人材育成・技術継承」「産学共同研究開発(映像制作・編集・配信等の技術開発)」「中小・ベンチャー育成支援」「情報発信」等の機能をあわせ持つ「大メディア産業拠点を形成し、新産業・高付加価値を創出するもの。」

なお、京丹波町の当該地は、京都クロスメディアパーク構想において、周辺エリアのオープンセットとして位置づけられている。

- ▶ 京都フィルムメーカーズラボ
  - 国内外の若手映像関係のクリエイターに対して、撮影所スタッフと映画制作を行うワークショップ及び一流監督等によるトークセッションを実施
- ▶ 京都映画企画市
  - 時代劇・歴史劇ジャンルの作品等の企画を募集し、優秀者には、撮影所で作品を映像化(パイロット版の制作)できるコンテストを実施
- ▶ ロケスポット京都
  - 京都府内の各市町村から収集したロケ地情報を一元化し、映画・映像制作者へ提供するためのポータルサイト

### ■京丹波町「オープンセット」「ロケーションオフィス」の状況

平成16年鳥インフルエンザ発生の養鶏場跡地を、オープンセットとして利活用するための取組を実施。(現状は更地であるが、昨年度も撮影実績あり)また、若手クリエイターや東映・松竹などからもオープンセット建設への期待あり

- ▶ 平成28年度の取組は、地方創生加速化交付金を活用
  - ロケ地活用調査、オフィス立ち上げ、情報発信サイト構築、地域特産物開発(ロケ弁)などを実施
  - ロケ地整備事業(既存建物の撤去及び交流スペースの整備を実施)

平成28年7月：映画「本能寺ホテル」のロケ地となる

8月：町民参加型プロモーションビデオ制作

11月：京丹波町観光大使に俳優 榎本孝明氏 就任

平成29年3月：ロケの受入体制を構築するための郷土料理を使ったロケ弁当開発

4月：京丹波町ロケーションオフィス設置 (<https://kyotambafilm.com/>)